

松本耿郎先生——業績——

1970年

- ・「アル・ガザーリーの神について」『中世思想研究』(中世哲学会誌)、12号、1970年8月、141～152頁

1973年

- ・「ガザーリーにおける宗教感情と信仰の論理」『イスラーム世界』(日本イスラーム協会誌)、9号、1973年7月、25～36頁

1978年

- ・「存在の単一性思想における存在について」『イスラーム世界』(日本イスラーム協会誌)、14号、1978年7月、21～36頁
- ・「アブー・ル・バラカートの時間論」『中世思想研究』(中世哲学会誌)、20号、1978年10月、21～35頁
- ・「幸福の錬金術」序章における「心」について」『紀要』(慶応義塾大学言語文化研究所)、10号、1978年12月、63～79頁

1979年

- ・「イスラーム反乱の論理」『朝日ジャーナル』12月28日号21(51)、1979年12月、12～16頁
- ・「ニヒリズム・否定神学・ペルソナリズム」アンリ・コルバン著、谷川渥・今道友信・松本耿郎(共訳)、『思想』(岩波書店)、6号、1979年6月、1～30頁(翻訳・注)

1980年

- ・「イスラーム世界の動向の底流について」『日本サウディアラビア協会報』、85号、1980年3月
- ・『イランにおける政治的諸問題とそのイスラーム的解決法』アボルハッサン・バニー・サドル著、アジア経済研究所、1980年5月(翻訳・解説)

1981年

- ・「革命的自己形成」アリー・シャリーアティー著、アジア経済研究所、1981年8月(翻訳・解説)

1983年

- ・「タウヒードの意義」『アッサラーム』28号、1983年3月

1984年

- ・「カラームの学——スンニー派と十二イマーム・シーア派」『アッサラーム』31号、1984年2月

1985年

- ・「イスラームの神学と哲学」中村廣治郎(編)『講座イスラーム1 イスラーム・思想の営み』中村廣治郎・後藤晃・小田淑子・竹下正孝・鎌田繁・湯川武・松本耿郎(共著)、筑摩書房、1985年9月、67～102頁
- ・「アッラーメ・タバータバーイーの「哲学入門」について—イスラーム革命と存在論—」『紀要』(国際大学中東研究所)、1号、1985年12月、27～47頁
- ・『イラン・イスラーム革命思想論選集』(科学研究費補助金(一般研究A)研究成果報告書、昭和58～59年度：第1分冊)、国際大学中東地域研究科、1985年2月(編訳・解題)
- ・『イスラーム革命における人間と思想—「クルアーンより見た神」—』ムハンマド・ホセイニー・ベヘシュティー著、(科学研究費補助金(一般研究A)研究成果報告書、昭和60年度～昭和63年度)国際大学国際関係学研究科、1985年3月(編訳・解説)
- ・「解放と有神論的革命」『マイダーン』(国際大学中東研究所)、5号、1985年7月

- ・「宗教者と権力」『マイダーン』(国際大学中東研究所)、6号、1985年11月

1986年

- ・“On the Theory of the Unification of the Cognizant and the Cognizable”『紀要』(国際大学中東研究所) 2号、1986年12月、37～57頁(アッラーメ・ガズヴィーニ著「知者と知の対象の一致」を英訳・解説)

1987年

- ・「イスラーム」小山宙丸(編)『概説宗教学』、小山宙丸・八田隆司・山我哲雄・酒井紀幸・菅原信海・谷口龍男・福井文雅・岡部英男・保坂俊治・八巻和彦、松本耿郎ほか5名(共著)、稲門堂、1987年5月、280～302頁
- ・「言語、存在、認識」黒田寿郎(編)『地域研究の方法と中東学』、黒田寿郎・小杉泰・森山茂徳・奥田和彦・浜日出夫・松本耿郎(共著)、三修社、1987年6月、100～126頁
- ・『イスラームにおける正義論』ムルタザー・ムタッハリー著、(科学研究費補助金(一般研究A)研究成果報告書、昭和60～63年度)国際大学国際関係学研究科、1987年2月(編訳・解説)

1988年

- ・「ジュルジャーニーの「存在の書簡」について」『紀要』(国際大学中東研究所)、3号、1988年4月、359～376頁
- ・「もう一つの知の様態—イスラーム哲学の知」『マイダーン』(国際大学中東研究所)、16号、1988年11月、1～3頁

1989年

- ・「後期イスラーム神学とスコラ哲学」長尾雅人・井筒俊彦・福永光司・上山春平・服部正明・高崎直道(編)『岩波講座 東洋思想第3巻 イスラーム思想1』、牧野信也・中村廣治郎・黒田寿郎・五十嵐一・S.H.ナスル・中村光男・松本耿郎(共著)、岩波書店、1989年6月、156～196頁
- ・「イスラームの宗教思想」小山宙丸・田丸徳善・峰島旭雄(編)『宗教の哲学』、小山宙丸・田丸徳善・峰島旭・丸野稔・酒井紀幸・寺田ひろ子・間瀬啓允・安中隆徳・藤本浄彦・中川栄昭・松本耿郎(共著)、北樹出版、1989年6月、52～66頁
- ・『現代イランの哲学研究—知と認識—』フマーユーン・ヘンマティー著、(科学研究費補助金(一般研究A)研究成果報告書、平成元～2年度；1(平成元年度第1分冊))国際大学国際関係学研究科、1989年3月(編訳・解説)

1990年

- ・「イスラーム哲学とオリエンタリズム」『紀要』(国際大学中東研究所)、4号、1990年3月、1～29頁
- ・「イスラームの正義論」『マイダーン』(国際大学中東研究所)、19号、1990年1月

1991年

- ・“A Survey in the Concept “Velâyat”of “Valâyat-e Faqîh,” T. Kuroda & R.I. Lawless (ed.), *Nature of the Islamic Community*, T.Kuroda, Y.Kosugi, M.Kuroda, Ahmad Tarabain, Ramadan. Shalla, H.Iwai, Richard Lawless, T.Niblock, 松本耿郎(共著)、勁草書房、1991年3月、146～165頁
- ・「ウィラーヤトの存在論」『紀要』(国際大学中東研究所)、5号、1991年3月、247～268頁
- ・『現代12イマーム・シーア派の思想・制度の総合的研究(イスラームにおける権力のオントロジー)』、(科学研究費補助金(一般研究A)研究成果報告書、平成元～2年度)国際大学国際関係学研究科、1991年3月

- ・『ジャーミー「閃光」Lawa'ihについての基礎的研』(科学研究費補助金(基盤研究(C)2)研究成果報告書・1(平成10年度第一分冊))、1991年3月(編訳・解説)

1992年

- ・“On the Return”『紀要』(国際大学中東研究所)、6号、1992年3月、233~264頁(アッラーメ・ガズヴィーニーの論文「ラジュアト」の英訳・分析・解説)

1993年

- ・『イスラーム政治神学・ワラーヤとウィラーヤ』未来社、1993年8月
- ・“An Inquiry into Walayah and Wilayah”『紀要』(国際大学中東研究所)、7号、1993年3月、83~108頁
- ・「イスラームの根本思想・ワラーヤについての管見」中村元(監修)・小山宙丸・宮野升宏(編)『講座 比較思想(第1巻)』小山宙丸・峰島旭雄・福井文雅・澤井啓一・岩田孝・岡部英男・長澤邦彦・宮野升宏・松濤誠達・ラインハルト・マイ・松本耿郎(共著)、北樹出版、1993年10月、75~97頁
- ・「イスラーム思想の可能性」中村元(監修)・田丸徳善・島田曄子(編)『講座 比較思想(第3巻)』田丸徳善・伊東俊太郎・小田川方子・峰島旭雄・八木誠一・金日坤・関根謙司・島田耀子・松本耿郎(共著)、北樹出版、1993年10月、108~123頁
- ・「イスラームの思想—その存在論と神名論—」『比較思想研究』、第19号、1993年
- ・「井筒先生との最後の会見」ナスロッター・プールジャヴァーディー著『井筒俊彦著作集』(第11巻付録11) 岩見隆・松本耿郎(共訳)、中央公論社、1993年6月、2~8頁(翻訳)

1994年

- ・「存在一性論と預言者性説とワラーヤ論・カイサリーの説を中心にして」鎌田繁・森秀樹(編)『宝積比較宗教・文化研究所学術論文集』(第2巻「ド、イスラム、中国の宗教・世界思想」) 館野正美・森秀樹・石田秀美・横手裕・丘山新・横山紘一・宮元啓一・田崎國彦・廣澤隆之・澤井義次・野元晋・東長靖・鎌田繁・松本耿郎(共著)、大明堂書店、1994年3月、253~294頁
- ・「現代サマルカンドの詩人たち」『紀要』(国際大学中東研究所)、8号、1994年3月、19~41頁

1995年

- ・「イスラームの「セクト」、板垣雄三・竹下正孝(編)『講座イスラーム世界・イスラームの思考回路(第4巻)』竹下正孝・小田淑子・小林春夫・柳橋博之・塩尻和子・鎌田繁・東長靖・杉田英明・ギンガ・マルクス・松井健・松本耿郎(共著)、悠思社、1995年3月、237~264頁

1996年

- ・「イスラーム神秘思想における凝集 jam' について—カイサリーの凝集論から—」『サピエンチア』(英知大学論叢)、第30号、1996年2月、295~307頁
- ・「イスラーム神秘思想における超越と内在—カイサリーの jam' (凝集論) から—」『紀要』(英知大学キリスト教文化研究所)、第11巻第1号、1996年3月

1997年

- ・「アブドルガニー・アンナーブルスィーの「存在一性論」について」『サピエンチア』(英知大学論叢)、第31号、1997年2月、429~442頁
- ・「イスラーム思想の園に遊んで・・・」『中東研究』、429号、1997年8月

1998年

- ・ *Consciousness and Reality ... In Memory of the Late Professor Toshihiko Izutsu*, S.J.Ashtiyani, H.Matsubara,

Takashi Iwami・松本耿郎(編)、岩波書店、1998年2月

- ・「イスラーム思想における「存在」に関する一考察—ジャーミーの「閃光」Lawā'ihにおける存在認識論について」『峰嶋旭雄先生古希記念論文集』梶村昇・小泉仰・田丸徳善・小阪国継・小田川方子・竹原弘・八巻和彦・司馬春英・頼住光子・渡辺明昭ほか34名(共著)、北樹出版、1998年1月、236～246頁
- ・“Unity of Ontology and Epistemology in QaysariS philosophy,” *Consciousness and Reality ... In Memory of the Late Professor Toshihiko Izutsu*, S.J. Ashtiyani, Hideichi Matsubara, Takashi Iwami・松本耿郎(編)、岩波書店、1998年2月、367～386頁

1999年

- ・「イスラーム宗教思想の「愛」についての一考察」『サピエンチア』(英知大学論叢)、第33号、1999年2月、1～20頁
- ・「馬聯元著『天方性理阿文注解』の研究」『東洋史研究』(京都大学東洋史研究会誌)、58巻1号、1999年6月、1～36頁

2001年

- ・「イスラーム哲学における「愛」についての考察—“清浄の同胞団”とイブン・スィーナ—」『サピエンチア』(英知大学論叢)、第35号、2001年2月、1～20頁
- ・「アフガン戦争…日本とイスラーム世界関係の再構築にむけて」『飛礫』、33号、つぶて書房、2001年12月

2002年

- ・『ペルシャ存在一性論集』ビブリオ書店、2002年3月
- ・「共生の方法としてのイスラーム」『比較思想研究』(比較思想学会)、第28号、2002年3月
- ・「イブン・スィーナ(アヴィケンナ)の哲学における「愛」に関する考察」『サピエンチア』(英知大学論叢)、第36号、2002年2月、97～121頁
- ・「中国イスラームの精神世界—劉智の「五更月」について—」『思想』、No. 941(9月号)、岩波書店、2002年9月、154～165頁

2003年

- ・「中国イスラーム存在一性論の“体一”について—」『人間文化』(英知大学人文科学研究室紀要)、第6巻、2003年3月、1～23頁

2004年

- ・「イスラーム存在一性論と教育思想—ジャーミーの「春の蘭」についての考察—」『サピエンチア』(英知大学論叢)、第38号、2004年2月、55～87頁
- ・「論馬聯元《性理微言》及其万有単一論哲学」『回族研究』(寧夏社会科学院)、2004年2号、2004年5月、34～40頁
- ・「波斯興雲南回族的万有単一論」『首届實典赤研究国際会議論文集』、雲南大学出版社、2004年8月、142～151頁
- ・「イスラーム存在一性論の構造と知的生命力」『宗教研究』(日本宗教学会)、第78巻341第2輯、2004年9月、131～155頁

2005年

- ・『波斯神秘主義哲学與中国穆斯林』鄭和下西洋與文明対話国際討論会匯(編)、寧夏社会科学院、2005年7月、169～174頁

- ・「馬復初和平哲学的発展」『文化対話與文化自覚論文集』、寧夏社会科学院、2005年11月、127～132頁

2006年

- ・「馬徳新とイスラーム思想の儒教的展開—非暴力・平和の思想—」『サピエンチア』(英知大学論叢)、第40号、2006年2月、141～160頁
- ・“An Analysis of the “Whole Substance and Vast Operations”” quanti dayong” in Ma Fuchu’s Philosophy,” 『本土知識的グローバル意義—文明対話国際学術検討会 論文集』、2006年6月、163～173頁
- ・『馬徳新思想研究序説』、(科学研究費補助金基盤研究(C)研究成果報告書)、2006年3月

2007年

- ・「中国イスラーム哲学思想における「全体大用」に関する考察——馬復初(徳新)における「全体大用」を中心に」『サピエンチア』(英知大学論叢)、41号、2007年2月、269～287頁

2008年

- ・“The Sufi intellectual tradition among Sino-Muslims,” in L.Ridgeon, Routledge (ed), *Sufism*, Vol. II, 2008年2月、101～119頁

2009年

- ・「イスラームの死生観と馬復初の来世観」『サピエンチア』(聖トマス大学論叢)、43号、2009年2月、143～164頁
- ・“On Rumi’s Philosophy of Language,” *Sophia Perennis*, Vol.1 Number 1, The Iranian Institute of Philosophy, 2009年11月、21～37頁

2010年

- ・“Ayatollah Khomeini and the Concepts of Wilayah and Walayah,” *Journal of Shi’a Islamic Studies*, Volume III Issue I (Winter 2010), The Islamic College, London, 2010年2月、5～23頁
- ・「イスラームにおける宗教間対話の理論」『宗教研究』、第83巻363第4輯、2010年3月、180～181頁

2011年

- ・「ジャーミーの『ユースフとゾレイハーにおける愛の人間完成学』」『聖トマス大学論叢』、第45号、2011年2月、80～98頁
- ・「アッラーへ至る道における二人の女性—ジャーミーの『ユースフとゾレイハー』に見る二女性の運命」『早稲田商学』(早稲田大学商学部紀要)、427号、2011年3月、374～400頁
- ・“On Knowledge in the Pre-Modern Muslim world,” 『イスラームにおける知の構造と変容—思想史、科学史、社会史の視点から』、早稲田大学イスラーム地域研究機構、2011年3月、3～12頁